



みんな最高！ 学校最高！ ふるさと最高！

「最高！」第10号



令和7年12月15日(月)発行

(りんどうヶ丘小ホームページQRコードです。学校生活のブログ等をご覧いただけます。)

PTA人権教育講演会

「こうのとりのゆりかごから始まる第2の人生」

子ども大学くまもと 理事長 宮津 航一 さん



今年度のPTA人権教育講演会は、慈恵病院の「こうのとりのゆりかご」（赤ちゃんポスト）に最初に預けられた、宮津航一さんをお招きして、「こうのとりのゆりかごから始まる第2の人生」という演題で話していただきました。

保護者や教職員に加え、5・6年生の児童もいっしょにお話を聞くことができ、貴重な学びの場となりました。

子供たちの感想文からもその様子がわかります。

宮津さんの講演を聞いて、私は、一度SNSで「こうのとりのゆりかご」について見たことがあります。その時は、正直言って、赤ちゃんをポストに置くなんて！と思い、よい印象ではありませんでした。

しかし、講演を聞いて、赤ちゃんとお母さんの人生を変えるすてきなポストなんだとと思いました。

また、私が宮津さんの立場だったらと考えるとマイナスな気持ちになると思うし、みんなに自分のことを教えようという気持ちには絶対ならないと思います。

でも、宮津さんは、このことをプラスにとらえているし、「こうのとりのゆりかご」のことを全国のみんなに伝えているのが本当にすごいなあと思い、尊敬しました。

ありがとうございました。

6年生感想より

また、宮津さんは、「こうのとりのゆりかご」は、もちろん赤ちゃんを預ける目的があるのですが、一番の目的は「相談してほしい場所」ということをおっしゃいました。

今、新聞やニュースなどで、全国各地で、誰にも相談できずに、トイレで生みおとしてそのまま遺棄するなどの事件が起こっています。だからこそ、「こうのとりのゆりかご」は「命をつなぐ選択ができる場所」として相談してほしい場所であるということを強く訴えられました。

私は、講話を聞く前は、こうのとりのゆりかごにはよいイメージがありませんでした。

しかし、ゆりかごがあることで、新しい家族や新しい人生に出会えるのだなと思いました。

だからと言って、ゆりかごを平気で使うことは絶対にいけないと思いました。

だから、講話を聞いた話を家族や友達に教えていきたいです。

それから、相談することの大切さや最後まで味方でいてくれる家族の温かさを忘れずに、アンテナを張って過ごしていきたいです。

6年生感想より

それでも、相談できない事情の人があるので、匿名で預けることができるようになっているのですが、これまで193人の命をつないできました。

宮津さんは、「ゆりかごを使わなくてもいい選択」として、「ゆりかごを選択しないで済む社会をつくりたい」ということを願っておられます。

宮津さんは、小学生のときに、体の大きい子が足の不自由な子にランドセルを持たせようとしていたので、「そんなことをするなら、お前とは遊ばん！」と勇気を出して言いました。

すると、家にその子のお母さんから「母親がないからそういうことをするんでしょう。」とクレームの電話がかかってきました。宮津さんのお母さんは、「うちの子はそんな子じゃありません。」ときっぱり言って電話を切りました。すごくっこいいなあと思いました。そして、憧れました。

ぼくも宮津さんとそのお母さんのように、友達を大切にして、守ることができる人になりたいです。

また、子ども食堂や子ども大学を立ち上げ活動されていてすごいです。ぼくも、それを踏まえて、自分も行動し成長していきたいです。

6年生感想より

里親であるお父さん、宮津美光さんの言葉です。
家族とは、血がつながっているということではない。
何があっても

最後まで味方であり続けることである！